



目標—指導—評価の一体化のための学習評価

小学校国語のポイント



小学校国語における単元の学習評価について、単元の目標及び「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成から評価の総括までの一連の流れを具体的な事例をもとに説明します。

I 単元の目標と言語活動、評価規準を作成する



【Step1】 単元で取り上げる指導事項の確認

「単元名」は、どんな言語活動を行うのが児童にわかるように工夫しています。

単元名	内容のまとまり
夏休みの思い出を報告しよう 第2学年 A 話すこと・聞くこと	第1学年及び第2学年 [知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 [思考力、判断力、表現力等] 「A 話すこと・聞くこと」

【Step2】 単元の目標と言語活動の設定

国語科は、言語活動を通して単元のねらいの実現を図る教科ですから、単元全体に一貫した言語活動を位置付けることが有効です。

1 単元の目標

- (1) 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。
[知識及び技能] (1) オ
- (2) 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基ついて、話す事柄の順序を考慮することができる。
[思考力、判断力、表現力等] A (1) イ
- (3) 話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。
[思考力、判断力、表現力等] A (1) エ
- (4) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

[知識及び技能][思考力、判断力、表現力等]に関する目標は、基本的に、指導事項の文末を「～できる」として示す。「学びに向かう力、人間性等」に関する目標は、いずれの単元においても、当該学年の学年の目標である「言葉のもつよさ～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示す。

2 単元で取り上げる言語活動

夏休みの思い出について報告したり、それらを聞いて感想を記述したりする。関連：[思考力、判断力、表現力等] A (2) ア

単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考にして位置付ける。

【Step3】 単元の評価規準の設定

国語科では、指導事項に示された資質・能力を確実に育成するため、基本的には「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準となります。

3 単元の評価規準

冒頭には、当該単元で指導する一領域を「(領域名を入れる)において」と明記する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っていると同時に、語彙を豊かにしている。[知識及び技能] (1) オ 該当する指導事項を示すことで、学習指導要領の指導事項との関連を明確にしています。	① 「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基ついて、話す事柄の順序を考慮している。[思考力、判断力、表現力等] A (1) イ ② 「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。[思考力、判断力、表現力等] A (1) エ	① 進んで (1)、相手に伝わるように話す事柄の順序を考え (3)、学習の見通しをもって (2) 報告しようとしている (4)。 (1) 粘り強さく積極的に、進んで、粘り強く等 (2) 自らの学習の調整く学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等 (3) 他の2観点において重点とする内容 (特に、粘り強さを発揮してほしい内容) (4) 自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動を明確にしています。

「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準については、文末を「～している」として示す。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準については、文末を「～しようとしている」として示す。

II 指導と評価の計画を立てる

【Step4】単元の指導と評価の計画の決定

4 指導と評価の計画 (全7時間)

「内容のまとめりごとの評価規準」は参考資料の巻末にすべての学年分掲載されています。



時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> ○夏休みの思い出を報告するという学習の見通しをもつ。 ○夏休みの思い出を複数想起し、その中から最も友達に報告したいことを選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の伝えたいという思いを引き出すために、教師が自身の思い出を紹介するなどして、学習への意欲を高め、学習の見通しがもてるようにする。 ・夏休みの思い出の中から、伝えたい思いの強さを手掛かりにして、一つを選ぶように指導する。 	<p>いつ、どのような方法で、児童について観点別学習状況の評価するための記録を取るのか、記録に残す場面を精選し、評価の計画を立てる必要があります。</p>
2 3 4	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-bottom: 10px;"> おわり 中 はじめ </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 15%; text-align: center;"> <p>・ ぜん て 思 っ た こ と お し</p> </div> <div style="width: 15%; text-align: center;"> <p>・ かん じ た こ と</p> </div> <div style="width: 15%; text-align: center;"> <p>・ し た こ と</p> </div> <div style="width: 15%; text-align: center;"> <p>・ 見 た こ と</p> </div> <div style="width: 15%; text-align: center;"> <p>・ 聞 こ え た こ と</p> </div> <div style="width: 15%; text-align: center;"> <p>・ ど だ い ど こ つ し と で た</p> </div> <div style="width: 15%; text-align: center;"> <p>■ は な し の く み た て</p> </div> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○「始め—中—終わり」といった話の構成で話すことを確認し、「始め」と「終わり」については先にノートに記述する。 ○「中」の部分については、第1時で選んだ最も報告したい思い出を詳しく想起して、必要な事柄を四つから六つ程度カードにそれぞれ書き出す。 <カードの種類(例)> ・見たこと ・したこと ・かんじたこと 等 ○夏休みの思い出を友達に報告するためにはどのような順序で話したらよく伝わるかを考えながら、ワークシート①の該当箇所カードを置き、その理由を書く。 ※ワークシート①参照 ○友達と交流した上で、カードの並び順を見直し、その順序で報告しようとした理由をワークシート②に書く。 ※ワークシート②参照 	<ul style="list-style-type: none"> ・上のような図を児童に示し、「始め」には、「いつ・どこで・だれと・どうした」を、「終わり」には、「全体を通して思ったこと」をそれぞれ一文程度で記述できるようにする。 ・選んだ思い出を詳しく想起できるように、日記や写真等を基に、経験や行動を振り返るよう助言する。 ・事物の内容を表す言葉、経験したことを表す言葉、色や形を表す言葉を確認し、カードの中で必ず用いるよう指導する。 ・物事や対象についてどのような順序で説明すると伝わりやすくなるか(例えば、経験した順に並べるなどの時間的な順序、感動の大きかったことの順に並べるなどの事柄の順序)について例を示す。 ・友達が並べたカードの順序と比べてみたり、友達と相談をしたりしながら、並べる順序を考えるよう促す。 ・最初の並び順から交流後に決めた並び順になった過程を振り返り、交流後の並び順に決めた理由を書くことができるようにする。 	<p>[知識・技能①] カード ・事物の内容を表す言葉、経験したことを表す言葉、色や形を表す言葉の文意に沿った活用状況の確認</p> <p>[思考・判断・表現①] ワークシート ・カードの並び順とその順序にした理由の確認</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度①] 観察・ワークシート② ・友達との関わりを通して並び順を見直している様子の確認</p>
5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> ○声に出して、夏休みの思い出について報告する練習をする。 ○グループ内で夏休みの思い出について報告し合い、質問する。報告が終わったら、ワークシート③に感想を書く。 ※ワークシート③参照 ○夏休みの思い出を報告するという学習を通して学んだことを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの話し方(声の大きさや速さ)について、特に良いと思ったところを伝え合うようにする。 ・グループ編成に際しては、前時で交流していなかった児童に報告できるよう配慮する。 ・聞き手は、話の内容や報告の順序に注意して聞き、それらを踏まえて自分が感じたことをワークシート③の感想欄に記述するように指導する。 ・本単元の目標に則して身に付いたこと、今後の学習や生活の中で生かしていきたいことについて記述できるように助言する。 	<p>[思考・判断・表現②] ワークシート③ ・友達の報告に対する感想についての記述の確認</p>

⑦グループ内で報告を聞いた感想を書く。

④アの位置に並べた順序について友達と交流する。
⑤交流した後、並び順を見直してウの位置にカードを貼る。
⑥並び順を見直した理由についてエの位置の吹き出しに書く。

①カードをアの位置に並べる。
②並べた順序の理由をイの位置の吹き出しに書く。
③並べたカードの内容をアの位置に書き写す。

ワークシート③

ワークシート②

ワークシート①

Ⅲ 「どのような姿を見取ることができればいいのか」評価規準を見童の姿で捉える

【Step5】 評価の実際と手立ての想定

知識・技能

「知識・技能①」は「中」の部分として書き出したカードの記述内容から評価しました。ここでは夏休みの思い出を伝えるための語彙を豊かにすることを目指して、事物の内容を表す言葉、経験したことを表す言葉を活用して自分の伝えたことが明確になるように指導します。

「努力を要する」状況(C)の児童への指導

事物の内容を表す言葉、経験したことを表す言葉、色や形を表す言葉のいずれかが活用できなかった児童は「努力を要する」状況(C)とした。その場合、教師が当該児童の夏休みの思い出に合わせて、具体的な表現の例をいくつか示すようにした。

経験した内容や感じたことをさらに詳しく表現したり、様子を表す言葉を用いたりしている。
「十分満足できる」状況(A)



思考・判断・表現①

「努力を要する」状況(C)の児童への指導

時間的な順序や事柄の順序に沿ってカードを並べることができなかったために、「努力を要する」状況(C)とした児童には、カードに書いた事柄から、これを夏休みの思い出にした理由を想起させ、どのような順序だったら相手に伝えたい内容が伝わるのか、教師と一緒に検討した。

順番を考える際に、時間的な順序や事柄の順序を考えるとともに、聞き手に与える印象や効果まで含めた理由を記述している。
「十分満足できる」状況(A)



それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて、「おおむね満足できる」状況(B)「努力を要する」状況(C)への手立てを想起します。

文意に沿って不自然にならないように気を付けながらそれぞれ一つ以上の言葉を取り入れて報告している。

「おおむね満足できる」状況(B)

具体的には・・・
夏休みの思い出を表現するために事物の内容を表す言葉として「いわば」、「あわ」、経験したことを表す言葉として「およいだ」、「つかまえる」、色や形を表す言葉として「青かった」、「ほしの形」の言葉を用いている。

【思考・判断・表現①】は話す事柄が書かれたカードを操作している様子を観察したり、どのような意図に基づいて操作しているのかを児童に質問したりして評価しました。一斉に活動している全児童の様子を一人の教師で把握するのは困難であるため、カードの順序を決定した理由をワークシート①「イ」に記述させ、その内容を評価の対象としました。

図1：児童1がワークシート①に並び順を書き写したもの

「ほしの形のようになびトナ
あわを任していらた
つかまえる
およいだ
ほしの形は青かった」

時間的な順序や事柄の順序に基づいてカードを操作し、それを踏まえてワークシート①「イ」に感想を書いている。

「おおむね満足できる」状況(B)

具体的には・・・
時間的な順序に沿ってカードを並べる順序を決めている。

